

解析力学B

第06回

神戸大 システム情報学研究科 計算科学専攻: 陰山 聡

この講義のウェブページ: URL: <http://tinyurl.com/kageyama2011>

2011.11.24

Table of Contents

連絡

質点の2次元運動

2質点系の運動

自由度 N の系

次週

- ▶ 『解析力学から天体物理へ: 計算機シミュレーションの世界』
- ▶ 政田洋平先生

質点の2次元運動

質点の位置が二つの座標 (r, ϕ) で決まるとき、ラグランジアンは

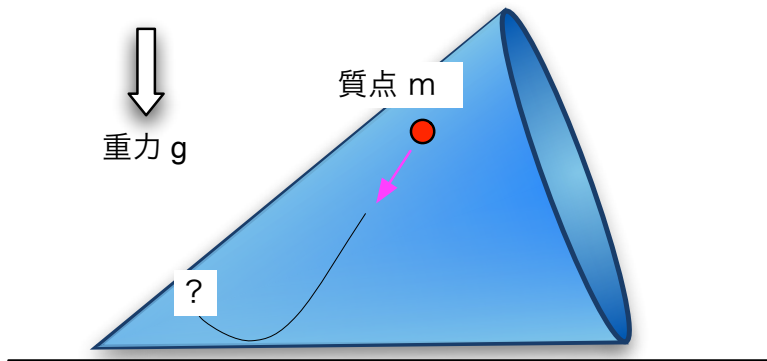
$$L(r, \phi, \dot{r}, \dot{\phi})$$

ラグランジュの運動方程式は、

$$\frac{d}{dt} \left(\frac{\partial L}{\partial \dot{r}} \right) - \frac{\partial L}{\partial r} = 0,$$

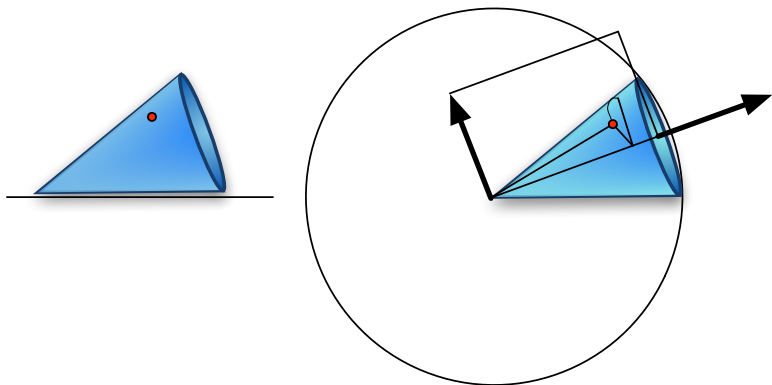
$$\frac{d}{dt} \left(\frac{\partial L}{\partial \dot{\phi}} \right) - \frac{\partial L}{\partial \phi} = 0,$$

例：水平面に置かれた円錐面上を滑る質点と重力



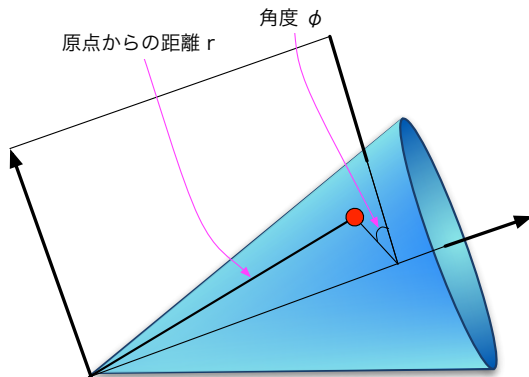
座標の取り方

- ▶ 座標の取り方はなんでもいいが、ラグランジアン L を計算しやすいようにするのがコツ。



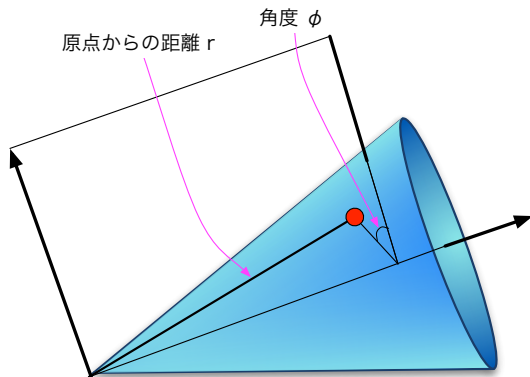
座標の取り方

- ▶ 原点からの距離 r と、円錐の中心軸の周りの角度 ϕ の二つを使う。
- ▶ 質点の位置は、 (r, ϕ) で決まる。



座標の取り方

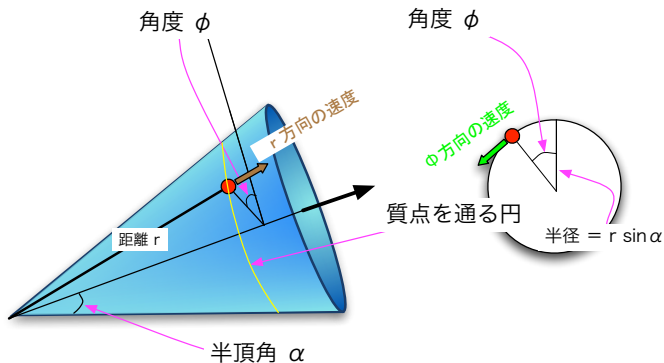
- ▶ 質点の運動は、時間 t の関数としての $(r(t), \phi(t))$ 。
⇒ 今求めたいのは、この二つの関数 $r(t)$ と $\phi(t)$ 。



ラグランジアン計算

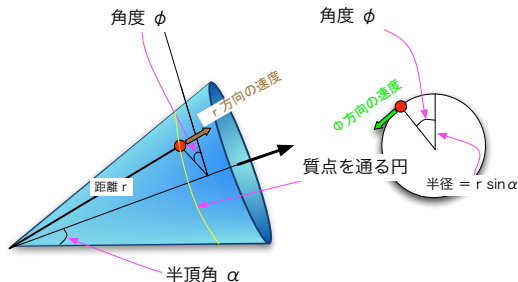
- ▶ ラグランジアン $L = (\text{運動エネルギー}) - (\text{ポテンシャル})$
- ▶ 運動エネルギー

$$\frac{m}{2} \text{速度}^2 = \frac{m}{2} (r \text{方向の速度}^2 + \phi \text{方向の速度}^2)$$



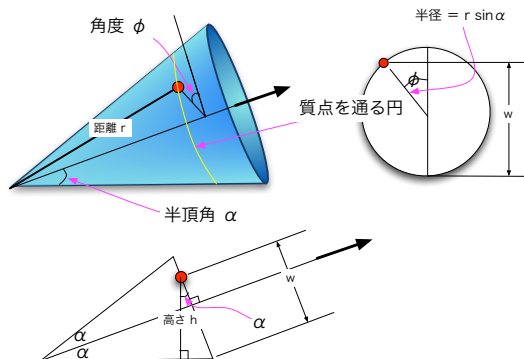
運動エネルギー

- ▶ r 方向の速度 = $\frac{dr(t)}{dt} = \dot{r}$
- ▶ ϕ 方向の速度 = (円の半径) $\times \frac{d\phi(t)}{dt} = r \sin \alpha \dot{\phi}$
- ▶ 運動エネルギー = $\frac{m}{2} \left\{ \dot{r}^2 + \left(r \sin \alpha \dot{\phi} \right)^2 \right\}$



ポテンシャル

- ▶ 床からの高さ $h = w \cos \alpha$
- ▶ $w = r \sin \alpha (1 + \cos \phi)$
- ▶ 従ってポテンシャル $= mgh = mgr \cos \alpha \sin \alpha (1 + \cos \phi)$



ラグランジアンが求まった

$$L(r, \phi, \dot{r}, \dot{\phi}) = \frac{m}{2} \left(\dot{r}^2 + r^2 \sin^2 \alpha \dot{\phi}^2 \right) - mgr \cos \alpha \sin \alpha (1 + \cos \phi)$$

ラグランジュの運動方程式は

$$\frac{d}{dt} \left(\frac{\partial L}{\partial \dot{r}} \right) - \frac{\partial L}{\partial r} = 0$$

$$\frac{d}{dt} \left(\frac{\partial L}{\partial \dot{\phi}} \right) - \frac{\partial L}{\partial \phi} = 0$$

ラグランジュの運動方程式を作る (r成分)

$$L(r, \phi, \dot{r}, \dot{\phi}) = \frac{m}{2} \left(\dot{r}^2 + r^2 \sin^2 \alpha \dot{\phi}^2 \right) - mgr \cos \alpha \sin \alpha (1 + \cos \phi)$$

を使い、機械的に計算する:

$$\frac{\partial L}{\partial r} = m r \sin^2 \alpha \dot{\phi}^2 - m g \cos \alpha \sin \alpha (1 + \cos \phi),$$

$$\frac{\partial L}{\partial \dot{r}} = m \dot{r},$$

$$\frac{d}{dt} \left(\frac{\partial L}{\partial \dot{r}} \right) = m \ddot{r}.$$

ラグランジュの運動方程式のr成分 $\frac{d}{dt} \left(\frac{\partial L}{\partial \dot{r}} \right) - \frac{\partial L}{\partial r} = 0$ に代入すると

$$m \ddot{r} - m r \sin^2 \alpha \dot{\phi}^2 + m g \cos \alpha \sin \alpha (1 + \cos \phi) = 0$$

ラグランジュの運動方程式を作る (ϕ 成分)

ϕ 成分も機械的に計算する:

$$\frac{\partial L}{\partial \phi} = m g r \cos \alpha \sin \alpha \sin \phi$$

$$\frac{\partial L}{\partial \dot{\phi}} = m r^2 \sin^2 \alpha \dot{\phi}$$

$$\frac{d}{dt} \left(\frac{\partial L}{\partial \dot{\phi}} \right) = 2 m r \dot{r} \sin^2 \alpha \dot{\phi} + m r^2 \sin^2 \alpha \ddot{\phi}$$

ラグランジュの運動方程式の ϕ 成分 $\frac{d}{dt} \left(\frac{\partial L}{\partial \dot{\phi}} \right) - \frac{\partial L}{\partial \phi} = 0$ に代入すると

$$m r^2 \sin^2 \alpha \ddot{\phi} + 2 m r \dot{r} \sin^2 \alpha \dot{\phi} - m g r \cos \alpha \sin \alpha \sin \phi = 0.$$

ラグランジュの運動方程式が求まった

求まった二つ運動方程式を整理すると、

$$\begin{aligned}\ddot{r} - r \sin^2 \alpha \dot{\phi}^2 + g \cos \alpha \sin \alpha (1 + \cos \phi) &= 0, \\ r \sin^2 \alpha \ddot{\phi} + 2\dot{r} \sin^2 \alpha \dot{\phi} - g \cos \alpha \sin \alpha \sin \phi &= 0.\end{aligned}$$

未知関数 $r(t)$ と $\phi(t)$ を決める2階の微分方程式が二組。

解析的に解くのは大変だが、計算機(数値積分法)を使えば簡単に解ける。

ラグランジュの運動方程式をちょっと書き換える

$u = \dot{r}$ と $v = \dot{\phi}$ という新しい量を二つ導入し、整理するとさきほどの運動方程式は次のように書ける:

$$\dot{r} = u, \quad (1)$$

$$\dot{\phi} = v, \quad (2)$$

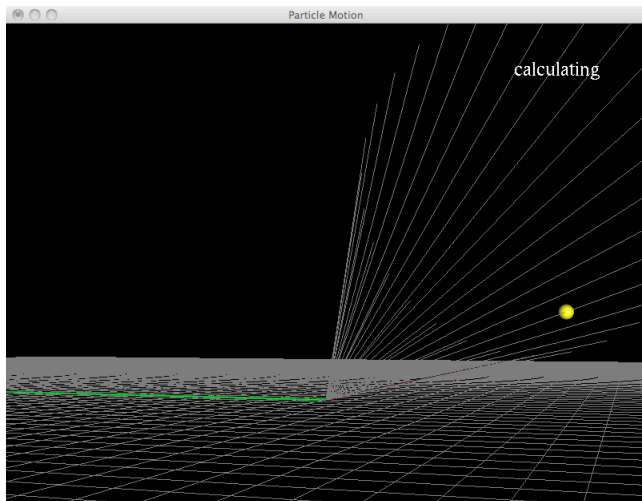
$$\dot{u} = r \sin^2 \alpha v^2 - g \cos \alpha \sin \alpha (1 + \cos \phi), \quad (3)$$

$$\dot{v} = -2uv/r + \frac{g \cos \alpha \sin \phi}{r \sin \alpha}. \quad (4)$$

未知関数 $u(t)$, $v(t)$, $r(t)$, $\phi(t)$ を決める1階の微分方程式が4つ。

これを計算機に解かせる。

シミュレーションコード: `particle_on_cone.cpp`



ラグランジュの方法の便利さ

- ▶ 1次元自由度のラグランジアン $L(\theta, \dot{\theta})$
- ▶ 2次元運動のラグランジアン $L(r, \phi, \dot{r}, \dot{\phi})$
- ▶ ラグランジアン の 作り方 と 運動方程式 は 自由度 が いくつ でも 同じ

自由度2の系

- ▶ 一つの質点の位置が二つの座標で決まる
- ▶ 二つの質点の位置がそれぞれ一つの座標で決まる

どちらも自由度2の系。ラグランジュの運動方程式の作り方は同じ。

レポート (report 111124)

二つの放物線 $y = x^2 + 1$ と $y = -x^2 - 1$ 上に拘束された質点 a と質点 b (どちらも質量 m)があり、二つの質点は線形バネ(ばね定数 k 、自然長 l_0)で連結されている。二つの質点の位置 x^a, x^b が従う運動方程式を下の形で求めよ。

$$\{1 + 4(x^a)^2\} \ddot{x}^a = ???$$

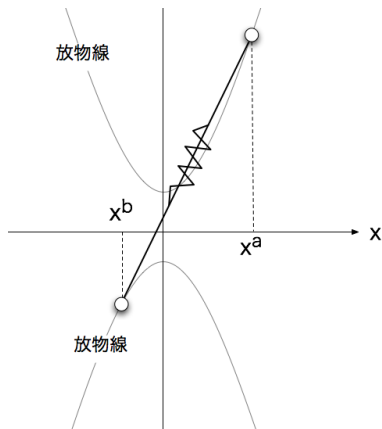
$$\{1 + 4(x^b)^2\} \ddot{x}^b = ???$$

ただし、右辺は $\Delta x = x^a - x^b$, $\Delta y = (x^a)^2 + (x^b)^2 + 2$, $s = \sqrt{\Delta x^2 + \Delta y^2}$ を使ってできるだけ簡潔に書くこと。

メール。レポートタイトル 111124

締めきり:12/5(月曜日)

2 質点系 (それぞれの自由度は1)



質点a: 座標 (x^a)

質点b: 座標 (x^b)

ラグランジアン = (運動エネルギー) - (ポテンシャル)

$$L(x^a, x^b, \dot{x}^a, \dot{x}^b)$$

ポテンシャル

$$U = \frac{k}{2}(s - l_0)^2$$

$$\begin{aligned} s &= \sqrt{(x^a - x^b)^2 + (y^a - y^b)^2} \\ &= \sqrt{\Delta x^2 + \Delta y^2} \end{aligned}$$

ここで

$$\Delta x \equiv x^a - x^b$$

$$\Delta y = y^a - y^b = (x^a)^2 + (x^b)^2 + 2$$

運動エネルギー

$$K = \frac{m}{2} \left\{ (\dot{x}^a)^2 + (\dot{y}^a)^2 + (\dot{x}^b)^2 + (\dot{y}^b)^2 \right\}$$

$\dot{y}^a = 2x^a \dot{x}^a$, $\dot{y}^b = -2x^b \dot{x}^b$ を代入して、

$$K = \frac{m}{2} \left\{ (\dot{x}^a)^2 + 4(x^a)^2 (\dot{x}^a)^2 + (\dot{x}^b)^2 + 4(x^b)^2 (\dot{x}^b)^2 \right\}$$

ラグランジアン

$$L(x^a, \dot{x}^a, x^b, \dot{x}^b) = \frac{m}{2} \left\{ (\dot{x}^a)^2 + 4(x^a)^2(\dot{x}^a)^2 + (\dot{x}^b)^2 + 4(x^b)^2(\dot{x}^b)^2 \right\} - \frac{k}{2}(s - l_0)^2$$

ただし、

$$s = \sqrt{(x^a - x^b)^2 + \{(x^a)^2 + (x^b)^2 + 2\}^2}$$

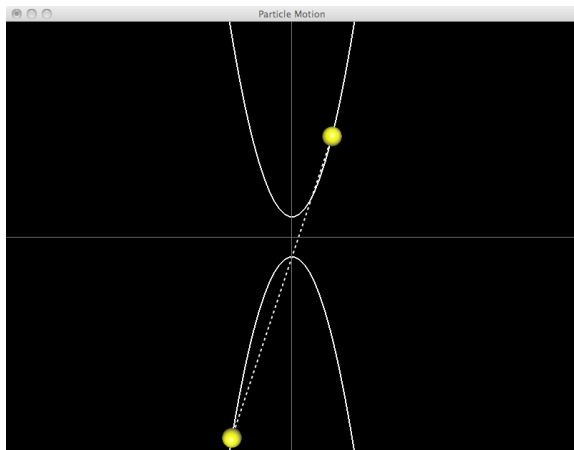
ラグランジュの運動方程式

$$\frac{d}{dt} \left(\frac{\partial L}{\partial \dot{x}^a} \right) - \frac{\partial L}{\partial x^a} = 0$$

$$\frac{d}{dt} \left(\frac{\partial L}{\partial \dot{x}^b} \right) - \frac{\partial L}{\partial x^b} = 0$$

【あとは自動的(レポート解答)】

シミュレーションコード: two_particles_parabola.cpp



6自由度系

質点a: 座標 (x_1^a, x_2^a, x_3^a) (カーテシアンとは限らない)

質点b: 座標 (x_1^b, x_2^b, x_3^b)

ラグランジアン = (運動エネルギー) - (ポテンシャル)

$$L(x_1^a, x_2^a, x_3^a, x_1^b, x_2^b, x_3^b, \dot{x}_1^a, \dot{x}_2^a, \dot{x}_3^a, \dot{x}_1^b, \dot{x}_2^b, \dot{x}_3^b)$$

ラグランジュの運動方程式 \Rightarrow いつもと同じ。

$$\frac{d}{dt} \left(\frac{\partial L}{\partial \dot{x}_i^a} \right) - \frac{\partial L}{\partial x_i^a} = 0 \quad (i = 1, 2, 3)$$

$$\frac{d}{dt} \left(\frac{\partial L}{\partial \dot{x}_i^b} \right) - \frac{\partial L}{\partial x_i^b} = 0 \quad (i = 1, 2, 3)$$

自由度が N とは: 系の状態が N 個の座標 (x_1, x_2, \dots, x_N) で指定される。ラグランジアンは

$$L(x_1, x_2, \dots, x_N, \dot{x}_1, \dot{x}_2, \dots, \dot{x}_N)$$

作り方 ($L = K - U$) は同じ。ラグランジュの運動方程式は簡単に:

$$\frac{d}{dt} \left(\frac{\partial L}{\partial \dot{x}_i} \right) - \frac{\partial L}{\partial x_i} = 0 \quad (i = 1, 2, \dots, N)$$